

江北町における義務教育のあり方検討会の最終報告

(江北町義務教育学校(仮称) 基本構想骨子)

令和5年3月 江北町教育委員会

1 はじめに

近年、児童・生徒の心身の発達の早期化や ICT 教育の導入など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。このような中で、学力の向上、中一ギャップ、特別支援への対応等の教育上の課題の解決と、新しい時代に対応した学習環境の形成が求められています。

また、小中学校の校舎が築 40 年前後経過しており、改修または建替えの検討を行う中で、施設だけではなく、現在の教育課題の解決ができる教育的な視点もあわせた新しい学校づくりについて、令和4年10月から「江北町における義務教育のあり方検討会」において検討を進めてきました。その結果、教育課題の解決や子どもたちの教育環境の向上が図られることが確認できたことから、施設一体型の義務教育学校を目指していくことを決定しました。

2 義務教育学校で目指す教育

(1) 教育理念

これからの変化の激しい時代を生きるために、児童・生徒の、知(確かな学力)・徳(豊かな心)・体(健やかな体)、三つの調和がとれた「たくましく生きる力」を育みながら、子どもたちが高い志を持ち、ふるさとに誇りを持って様々な社会の変化に立ち向かうことができる人材を育てることが重要です。

そのため、新学習指導要領の着実な実施により義務教育の目的・目標を達成する観点から、小学校6年間、中学校3年間で分断するのではなく、義務教育9年間を一体的に捉え、指導の一貫性や学びの系統性を重視した教育活動を展開する義務教育学校を目指します。

(2) 学校概要

① 形態

江北小学校と江北中学校を統合した施設一体型の義務教育学校(1年生から9年生)

② 教職員

義務教育学校制度の特徴を生かして、さらなる教職員体制の充実を図ります。

(3) 学年の区切りと教育課程の編成

義務教育学校における教育課程の編成に関しては、小学校及び中学校学習指導要領を準用することから、9年間の学習内容は変わりませんが、「6-3制」の学習内容を踏まえて、9年間を見通した「4-3-2制」など柔軟な学年段階の区切りによる系統的な編成をしていきます。

3 義務教育学校の整備方針

(1) 学校整備の基本的な考え方

児童・生徒や教職員が学年を超えての交流や連携が図れる空間を考慮するなど、義務教育学校としての特性を十分発揮できる施設とします。

- ① 児童・生徒の主体的な活動を支援する施設整備
- ② 教職員の働きやすい施設整備
- ③ 児童・生徒、地域住民の安全・安心を確保できる施設整備
- ④ 児童・生徒、地域住民の交流を推進できる施設整備
- ⑤ ICT を活用できる施設整備
- ⑥ 学校施設の機能向上を目指す施設整備

(2) 建設予定地等

義務教育学校の校舎建設については、既存の校舎(江北小学校、江北中学校)を統合し、一体型校舎を整備します。なお、建設予定地については江北中学校敷地内を予定しています。

(3) 開校時期

令和10年4月開校を目指します。